

日本国内居住者と訪日外国人の旅行消費の動向

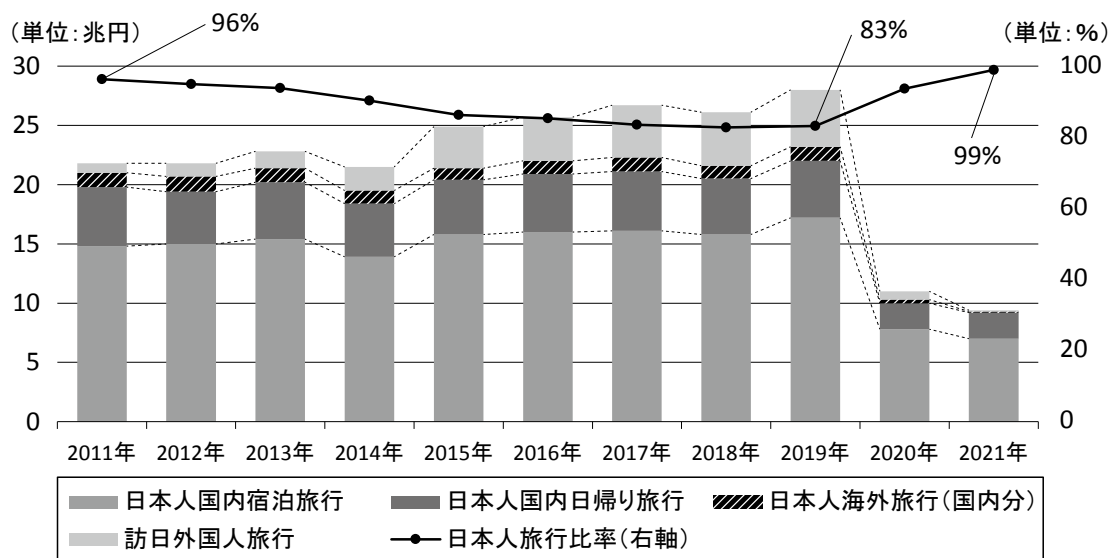
観光庁では、わが国の旅行消費の実態を全国規模で把握することを目的として、日本国内居住者については「旅行・観光消費動向調査」を、訪日外国人客については「訪日外国人消費動向調査」を行っている。この二つの調査を合わせることで、わが国の旅行消費額全体をみることができ、その推移をグラフで示したのが下の図表となる。

2011年から2019年までの推移をみると訪日外国人消費（以下、インバウンド消費）は年々増加し、インバウンド消費の占める割合は2011年の4%弱からピークの2019年には17%を占めるまでになった。なお、2020年、2021年は新型コロナウイルスの感染拡大の影響からインバウンド需要がほぼ消滅し、全体の99%が日本人の国内旅行消費となった。

一方、日本人の国内宿泊旅行・日帰り旅行・海外旅行（国内分）の推移をみると、消費額は2011年の21兆円から2019年の23兆円に約2兆円増加した。同期間で4兆円増加したインバウンドには及ばないものの、消費額としては増加基調を維持し全体の83%を占める日本人の旅行消費は、わが国の旅行消費にとって最も重要な位置づけにあると思料される。

コロナ禍からの回復により経済や移動の再開が進みつつあるなか、大きな期待が寄せられるインバウンド需要の取り込みに注力するとともに、一方で最大の消費者である日本人の旅行消費の取り込みにも、しっかりとした対応が求められる。
（商工総合研究所 主任研究員 川島宜孝）

（図表）旅行消費額の推移



（資料）観光庁「旅行・観光消費動向調査2021年年間値（確報）」に基づき筆者作成

（注）新型コロナウイルス感染症の影響により2020年と2021年の一部調査が中止となったため、一部数値が試算値となっている